

# 豊友会会報

大分大学下郡496-38  
大分県教育会館内  
大分大学教育福祉科学部  
同窓会「豊友会」  
編集兼 園田和孝  
発行人  
TEL 556-0145  
bundai-hoyu@fuga.ocn.ne.jp  
印刷所  
(株)明文堂印刷  
TEL 533-8800

## 学部を越え絆の深まりを

### 大分大学と同窓生との交流会

六つの同窓会の交流・意見交換を目的に、十一月二十三日、九回目の「交流会」が開催された。



報告に聞きいる参加者

北野正剛学長の挨拶後、各学部・研究科等の現状報告があり、研究成果、学生の現況、地域連携など、多岐にわたる研究、現状に立脚した経営の重点等の話題に同窓生のメモを取ったり、頷いたりする姿が印象的であった。在学生の現状報告は、医学部医学科学生の高橋里枝子さんが、キャンパスライフの中から、病院研修の実例を



園田和孝会長と北野正剛学長

中心に支援活動も交えて報告した。特別講演は、医学部六井博文教授が、「補助循環

- 現状報告
- 経済学部・経済学研究科 学部長・研究科長 市原 宏一 教授
- 医学部・医学系研究科 学部長・研究科長 大橋 京一 教授
- 工学部・工学研究科 学部長・研究科長 井上 正文 教授
- 大学院福祉社会科学部 学部長・研究科長 阿部 誠 教授
- 教育福祉科学部・教育学研究科 学部長・研究科長 柳井 智彦 教授

講演の展望」と題し、講演。振動型人工心臓の駆動、制御をはじめ、自作でポンプ作成に没頭し、苦心した研究成果の数々を披露した。会場を移し、懇親会が和やかな雰囲気で行われた。参加の恩師が紹介され、大谷眞忠名誉教授が代表し、挨拶。佐藤辰夫九峰会会長の祝杯の発声で始まった。いくつもの懇親の輪から、懐かしい談笑の声が広がり、交流が深まった。

去る十一月十五日に二十四年度の「豊友会支部女性代表者会」が県教育会館で開催された。

## 支部で出来る 活動を探ろう

### 支部女性代表者会

園田会長は「百年以上続いてる先輩の築いた同窓会を後輩にバトンタッチする必要はある。同窓会の男女の比率は年々女性の割合が増え、女性に負うところが大きくなってきている。女性のパワーや知恵を賜りたい」と、挨拶され、同窓会や大学

の現状を話された。続いて、大分大准教授大上和敏氏による「水と温泉の話」の講演会がも

活動報告、問題点、今後の方向についての討議がされた。支部の抱える高齢化や新入会員の減少等

の問題が出された。そんな中で別府支部等から現状にあった活動事例が提示された。「自分の支部



講演する大上和敏准教授

で何が出来るか」を具体的に考え、実践するきっかけを学ぶことができた。

十一月二十七日、平成二十四年度教育者表彰式に出席いたしました。式は国立劇場において行われ、那谷屋正義文部科学大臣政務官より代表者に表彰状と記念品が授与され、長年の教育活動に対



## 表彰に想う

大分市立明野北小学校 校長 田 辺 義 秀 (昭和51年卒)

する感謝の言葉を頂きました。また、来賓を代表して全連小会長よりお祝いの辞を頂きました。午後は、皇居春秋の間において、天皇皇后両陛下に拝謁いたしました。天皇陛下から、教育者と

今回の受賞にあたり、これまで導いて下さった教育関係者の皆様から感謝するとともに、これまでの経験を活かし、今後とも教育活動に情熱を注いでいく気持ちを新たにしました。

兄のように慕っていた予科練生の先輩が、最後の帰省の時、連絡船の中で私に言った言葉が忘れられない。「予科練に来てはいけな

「叙勲」果してそれに対応するだけのことをやっていたらどうか。すべてが先輩の指導を受け、後輩と一緒に活動したものである。教職生活三十九年のうち二十五年が文部省指定



## 叙勲に思う

井上 正 行 (昭和23年卒)

大分県助成・各団体委嘱の研究学校であった。学校ぐるみの取り組みを日夜を分たず努力を重ねた。首長・教育長・地域住民の支援すばらしいものがあった。

そのため、学校増改築等に協力してもらった。また、校長会・教頭会の事務局長・会長を永年にわたり就任し校長教頭の指導を行った。退職後は退職校長会の事務局長・会長を十年・保護司十七年・教育委員八年(うち委員長二年)・老人会支部長三年等を歴任した。

半世紀を越えて共に過ごしてきた老妻に、残すことばとして、「永い間、ありがとう。幸せだったよ。来世もまた一緒に...」などなど...ちよっとセンチメンタルな気分になりかけていると、向こうから「居眠りしてないで歩いてくるんでしょ。手を振って足を挙げて...」叱声が飛んできた。どうやら、もっと生かしておきたいらしい。「一人になつたら寂しくて生きていく自信がない」と言うのであれば嬉しいが...。そんな甘いことではない。年寄りの僻みからか、年金のためだろうなどと素直でない考えが、頭をよぎる。

## おめでとうございます

- ◎瑞宝小綬章 日田市 財津 利英氏(昭和28年卒)
- ◎瑞宝双光章 中津市 井上 正行氏(昭和23年卒) 大分市 堀 良生氏(昭和34年卒)
- ◎文部科学大臣表彰 大分市立明野北小学校 校長 田辺 義秀氏(昭和51年卒) 大分市立城東中学校 校長 平松 雅彦氏(昭和50年卒)
- ◎優秀教員文部科学大臣表彰 杵築市立立石小学校 友成 恒二氏(昭和43年卒) 大分県立宇佐支援学校中津校 松本 芳郎氏(昭和61年卒)



挨拶する首藤宏副会長

教師が直面する心の諸問題に関するトータルサポートを目的に、5回目の大分大学教育臨床フォーラム(同窓会と大学の共催事業)が11月23日、開催された。大分大学医学部の上野 徳美教授と岡山大学大学院教育学研究科の山本力教授が心理士の立場から事例を交えた講演に、参加者の熱心な姿が見られた。毎回、参加者が多く、実践に結びつく共催事業となっている。

## 傘寿

腰の短剣の姿は、当時の中学生の憧れであった。そんな私の気持ちを読みとつての言葉であったと思ふ。先輩は間もなく特攻隊として出撃し帰らぬ人となつてしまった。死を覚悟し複雑な思いの中で、命の大切さを私に語ってくれたのである。近頃は、死を迎えた時に残す言葉を考えることが多くなつてきた。